

■橋本雅邦 日本画家。<維新>で、御用絵師から一転路頭に迷うも復活、近代絵画界最高位に。“狩野派最後の巨匠”。

はしもとがほう
滑稽+人情本 1835＝ 木挽町狩野家当主晴川院養信の高弟として同家の邸内に一家を構える武蔵国川越藩の御用絵師橋本晴園養邦の子に生まれる。

大塩平八郎乱 1837＝ 2歳：

勅進帳初演・1840＝ 5歳： 慣習に従って、父から狩野派の手ほどきを受け始め、

天保改革終・1844＝ 9歳：
阿部正弘首座 1845＝10歳：

・・・ 1847＝12歳： 父の師養信に入門するが、直後に養信が死去したため、その後継者狩野勝川院雅信に師事、

すぐに頭角をあらわすとともに、同時に入塾した7つ下の狩野芳崖とは性格は正反対ながら、改革めざして生涯の友となり、

ペリー来航・1853＝18歳：
開国開港・・・ 1854＝19歳：

蕃書調所・・・ 1857＝22歳： 塾頭になる。塾内の絵合わせでは狩野芳崖とともに源平の組頭を務め、“勝川院の二神足”と称される。

桜田門外変・1860＝25歳： 雅邦の号をもらって絵師として独立を許され、池田播磨守の家臣高田藤左衛門の娘と結婚。

生麦事件・・・ 1862＝27歳： 川越藩の絵師になるも、幕末動乱期で既に絵画の需要は少なく、

明治維新・・・ 1868＝33歳： 維新前後は、藩主のいる川越に避難していたが、

初の日刊新聞 1870＝35歳： 木挽町狩野家が火災で全焼、自分も財産のほとんどを焼失してしまい、
廃藩置県・・・ 1871＝36歳： 出仕していた川越藩も廃止され、兵部省の海軍兵学校で図係学係として製図を行うようになり、

明治6年政変 1873＝38歳： 狩野派の絵師としての活動も不可能になって、一時は油絵を描くことさえ余儀なくされる。

明治10年代に入って、フェノロサによる伝統美術復興の運動がおこり、フェノロサの庇護を受けていた芳崖と共に新しい表現技法を模索するようになる。

・・・ 1880＝45歳：
明治14年政変 1881＝46歳：
新体詩抄・・・ 1882＝47歳： *農商務省主催第1回内国絵画共進会に「琴棋書画図」を出品、銀印主席となり、同じく出品した「竹に鳩」が宮内省の御用となって、明治画壇にデビュー。

秩父事件・・・ 1884＝49歳： フェノロサ、岡倉天心らが{鑑画会}を発足させると、芳崖とともにこれに参加、形骸化しつつあった狩野派絵画に卡ろうじて流れていた“気韻生動”の気を復活するとともに、色彩や光線の表現に新しい工夫を加えて新画風の開拓につとめる。

帝国大学始・1886＝51歳： 海軍兵学校を辞し、文部省の絵画取調所に出仕。フェノロサ・岡倉天心の指揮下、芳崖と共に東京美術学校の発足に向けて準備を進めるが、

帝国憲法発布 1889＝54歳： 開校を目前に芳崖が死去、その絶筆である「悲母観音」の仕上げを任され、
帝国議会始・1890＝55歳： *代表作「白雲紅樹」。東京美術学校開校に際して、芳崖の代わりに絵画科の主任となるとともに、帝室技芸員制度の創設に伴い、最初の帝室技芸員に任命され、名実ともに当時の絵画界の最高位に登り詰めた。

日清戦争始・1894＝59歳：
日清戦争終・1895＝60歳： 代表作「竜虎図」。
下村観山や横山大観、菱田春草、西郷孤月、川合玉堂、寺崎広業、橋本静水らを指導して、近代美術に大きな影響を及ぼし、

子規句歌革新 1898＝63歳： 美術学校騒動で罷免された天心に従って野に下り、日本美術院の創立の主幹となり、天心を助ける。

在野でありながらも画壇の重鎮として重んじられ、ときには後進の菱田春草、横山大観らの朦朧調の長所をとりいれ、また晩年は琳派の手法を試みるなど、近代日本画へのなかだちを果たして、

日露戦争終・1905＝70歳：

韓国反日暴動 1907＝72歳：
アヲキ 創刊・1908＝73歳： 没した。